

希望の保育指針のためのリンク集

「希望の保育指針」を考えるためのエピソードや参考情報をリンク集にまとめました。各章のテーマに合わせて、思考や対話を深めるための問いが詰まっています。ぜひご覧ください。

DOOR

保育の手触り・息づかい



ROOM 1

ゆらぎながら育つ



ROOM 2

問いにもとづく



ROOM 3

遊び(暮らし)ながら考える民主主義



ROOM 4

生活といのちをつなぐ暮らし



NEXT DOOR

ひらかれる



NEXT DOOR ひらかれる

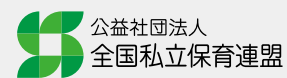
「希望の保育指針」は、保育者はもちろん、保護者、学校の先生、子育て支援者、行政、政治家、子どもを想う企業の方などにも向けられています。保育の場から生まれた問いや声を社会にひらき、共に考え、変容し、私たちが必要とする制度や仕組みを要望することで、子どもと共に暮らす民主主義が実現すると考えています。



「希望の保育指針」を共につくっていくために、それぞれの現場で必要としたエピソードや問い、リーフレットへのご意見を右記 **意見フォーム** からぜひお寄せください。——→



発行 公益社団法人 全国私立保育連盟
〒111-0051
東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館
TEL 03-3865-3880 FAX 03-3865-3879
URL: <https://www.zenshihoren.or.jp/>
E-mail: ans@zenshihoren.or.jp

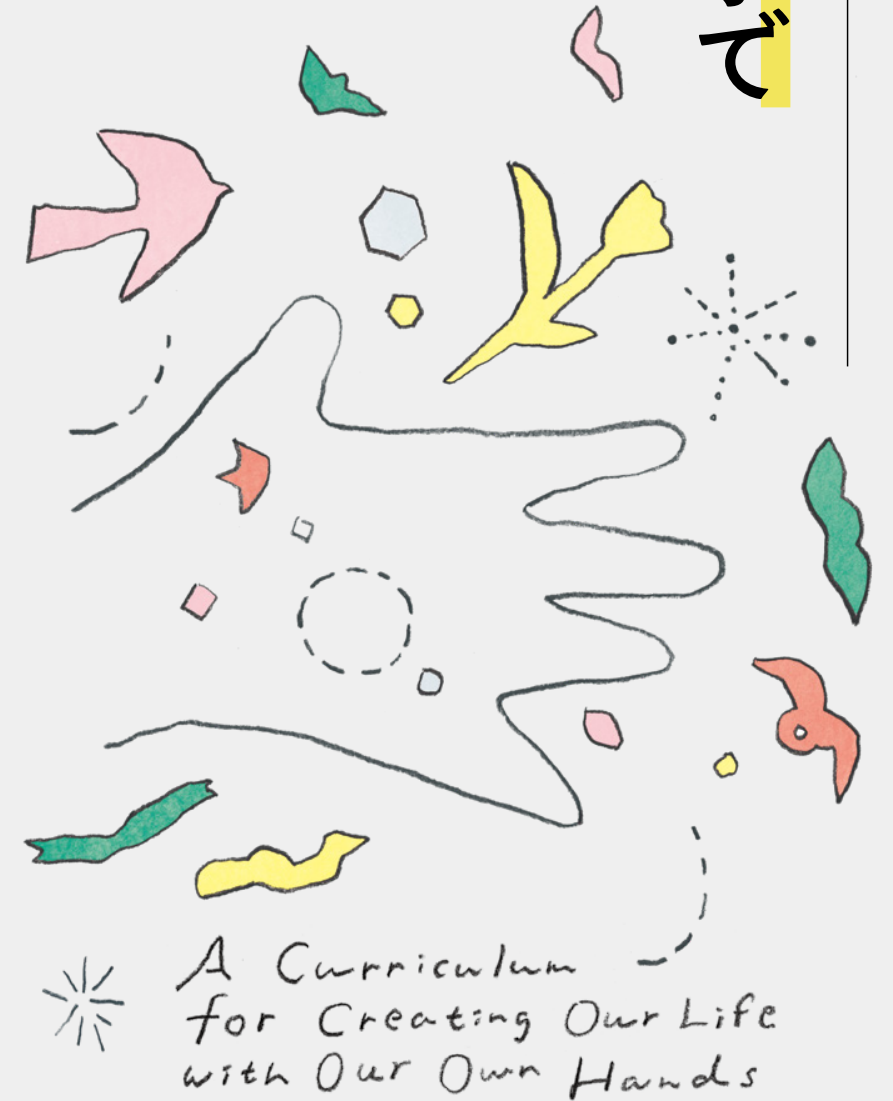


制作 合同会社めて
デザイン Aim Design Inc.
イラスト 須山奈津希

自分たちの手で 自分たちの 暮らしを つくる

編者

全国私立保育連盟
保育・子育て総合研究機構
ナショナル・カリキュラム研究チーム
山本一成(滋賀大学)
久保健太(大妻女子大学)
伊集守直(横浜国立大学大学院)



ENTRANCE

人は、自分を安心してさらけだせる場で育つのだと思う。あいまいさや緩やかさが許された場で過ごしていると、そこにいる一人一人が自分のタイミングで何かをし始める。私たちは、まだ形にならない子どもの世界をともに生きる。教えなくても、楽しませなくても、子どもたちが楽しんでいることを見つけて一緒に楽しみ、一緒に学ばばいい。子どもたちは、“今”と一緒に生きてくれることを、大人に対して求めている。

一緒に生きるということは“揺れる”ということ。今はまだまとまらない時間を大切に思う気持ちをもって、子どもの育ちを信じていくこと。“子どもたちを信じられる自分”を信じること。

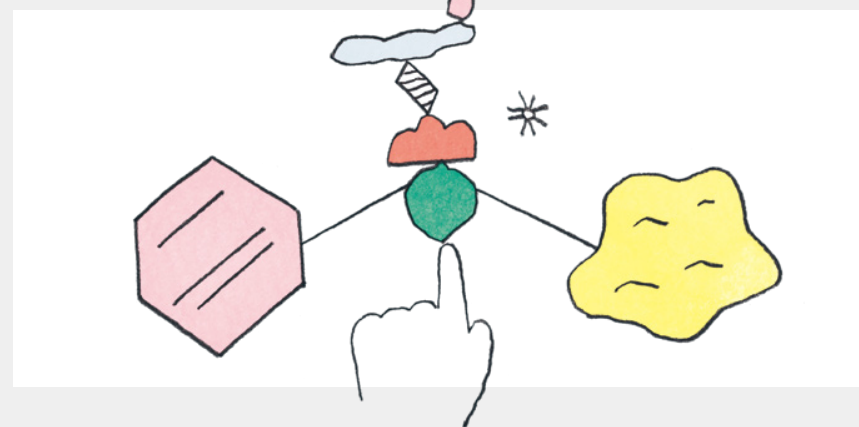
私たちの暮らしのなかにある、小さな声に耳を澄ましてみる。子どもが生きる世界に吸い込まれ、動いているいのちに気づいていく。いのちのつながりのなかで、どうしたら共に生きられるかを考えていく。保育のカリキュラムは、私たちの暮らしのなかにある。

『保育通信』連載「保育者たちが語り合う・座談会」より
(2023年5月号～2026年3月号まで奇数月掲載 全18回)

私たちは、人口減少社会における保育についての研究を通して「全ての子どもが、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現」(こども基本法)を目指す保育のビジョンを構想してきました。本冊子では、その中心となる、6つのキーワードを提唱します。

ROOM 1 ゆらぎながら育つ

やりたいけど、やりたくない。挑戦したいけど、勇気がでない。好きだけど、好きじゃない。子どもたちも保育者も、人間は相反する気持ちを抱えながら変化していきます。その気持ちは、主体性を「感じる主体性(湧き出しちゃう主体性)」と「考える主体性(選ぶ主体性)」という両輪としてみることで理解できます。子どもたちの心が動くとき、そこにはどのような主体性が働いているのでしょうか。



ROOM 3 遊び(暮らし)ながら考える民主主義

遊びのなかでルールを決めていくこと、ケンカのなかでお互いの思いをぶつけあうこと。そのような日常のなかに民主主義の学びがあります。子どもたちは、それぞれの存在が尊重され、身近な集団のなかで影響をもつ経験を重ねることで、共に暮らすための工夫を学んでいます。それでは、私たち大人は、そのときどんな役割を担っているのでしょうか。



DOOR 保育の手触り・息づかい

希望の保育指針は、「自分たちの手で自分たちの暮らしをつくる」ことを大切にしています。それぞれのROOMには、保育の手触り、息づかいが感じられるエピソードと問いが置かれ、子どもたちの姿を通して暮らしのあり方を考えるための工夫がされています。ぜひ巻末のリンクをひらき、仲間と共に自分たちの保育を語り合ってみてください。



ROOM 2 問いにもとづく

子どもたちは自己を発揮すること、他者に合わせて調整することのバランスを取りながら、共に生きることを工夫していきます。このゆらぎながらの育ちに寄り添うなかで、大人もまた変わり続けます。子どもたちと共に変わっていくために、私たちはどのような問いを必要としているのでしょうか。



ROOM 4 生活といのちをつなぐ暮らし

「暮らし」は、生きているものどうしがかかわりあうなかで営まれます。しかし、私たちの今の生活は、十分にいのちのつながりを感じられるものになっているのでしょうか。保育の場は、子どもをまんやかに多様ないのちが共生する場です。保育の文化が培う多様性と共生の知恵を社会とつないでいくことで、未来の希望が生まれると考えています。

